

2019年10月22日

ロンドン・ジャパン祭りと日英桜植樹プロジェクト

今年で11回目の開催となったジャパン祭り2019

9月29日（日）、ロンドンのトラファルガー広場にて、今年で11回目となる日本文化イベント「ジャパン祭り2019」が開催されました。在英日本国大使館、英国日本人会、在英日本商工会議所、ジャパンソサエティ等がジャパン祭り実行委員会を組織、ロンドン市の後援のもと行なわれるロンドンでは最大の屋外での日本文化イベントです。

今年は、雨が降ったり止んだりの生憎の天気でしたが、若者から家族連れ、ご年配の方々まで多数の来場者で賑わいました。

【トラファルガー広場での「ジャパン祭り2019」の様子】



メインステージでは、オープニングの和太鼓にはじまり、津軽三味線や民謡などの音楽、沖縄エイサー、よさこい踊り、阿波踊りなどの舞踊が披露されました。会場内の武道ステージでは、空手や柔道、剣道、弓道、合気道などの日本古来の武道がおこなわれ、多くの来場者が興味深く見入っていました。

家族向けのテントでは、折り紙や習字の体験コーナーやヨーヨーすくいなども設けられ、フードテントでは、定番のお祭りメニューの焼きそばやたこ焼き、焼き鳥などが販売され、長蛇の列が出来る人気でした。

また、日本観光の魅力を発信するテントも、今年は例年以上に賑わいを見せ、来年のオリパラ観戦に向け具体的な旅行プランを練っている来場者も多く見受けられました。

【武道ステージでは合気道などの日本古来の武道を実演】



【ナショナルギャラリー前には全長9mの「アート・ウォール」】



【日本観光をPRするテントも例年以上の賑わい】



日英桜植樹プロジェクトとは

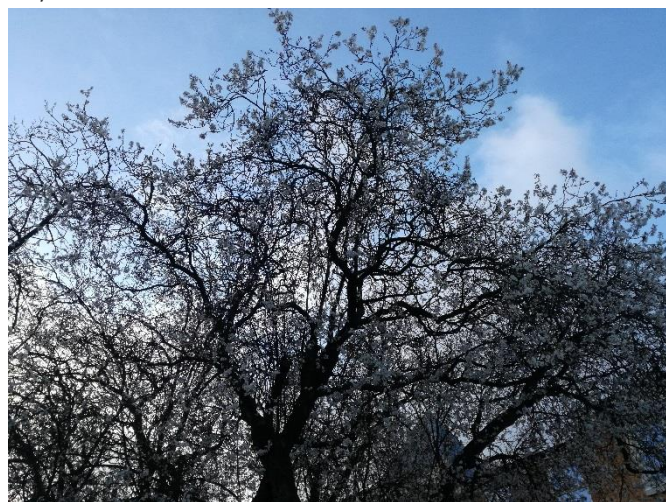
このジャパン祭りを運営するのは、英国日本人会、日英商工会議所、日本協会、日本クラブで組織される「ジャパン祭りカンパニー」で、この「ジャパン祭りカンパニー」は一般社団法人日英協会とともに「日英桜植樹プロジェクト」を進めています。

“日英桜植樹プロジェクト”は2017年8月、英国のメイ前首相訪日時に安倍首相との日英首脳会談にて「日英共同宣言」が交わされ、「日英関係の目に見える象徴として、相当数の桜の木を日本の民間から英国に寄贈するという提案を歓迎し、この考えがさらに発展すること期待する」という文言が盛り込まれ、始まったものです。

当初、構想段階では千本の桜を寄贈しようとするものでしたが、現在では英国全土に6,500本の桜を植樹するという非常に大きな計画となっています。

イングランド、ウェールズ、スコットランドから北アイルランドまで、英国全土にある公園、庭園、多くの学校に桜の木が寄贈される計画で、2019年8月時点で、160以上の公園と庭園、400以上の学校が本プロジェクトに賛同し、参画を表明しているということです。

【6,500本もの桜を植樹する“日英桜植樹プロジェクト”】



英国全土に広がる桜

今年3月には、スコットランドのクラクマナンシャー市にあるカウデン日本庭園に22本の桜が植樹されました。このカウデン日本庭園は約100年前に作られ、その後放置されてきましたが数年前より修復プロジェクトが立ち上がり、2018年夏から一般公開が始まっています。

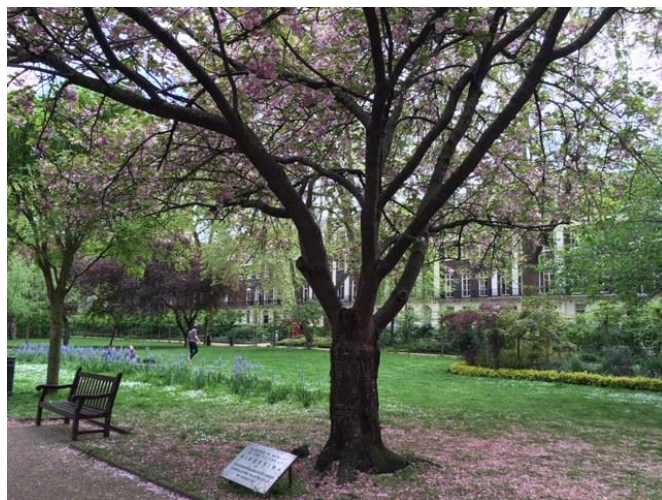
また、4月にはイングランド南西部ブリストルに近いキャサリン・レディー・パークレイズ校で、山梨県立日高高校の生徒も参加して桜植樹式がおこなわれました。

来月にはロンドンのリージェンツ・パークにて桜植樹セレブションがおこなわれる予定で、日英文化季間の続く2021年秋までに植樹は完了する計画です。

この“日英桜植樹プロジェクト”は将来に亘って日英友好のシンボルとして、深く根を張り、花を咲かせ続けることでしょう。

以上

【1967年8月、広島原爆犠牲者のためにロンドン・カムデン区長より寄贈された桜（ロンドン・タヴィストック広場）】



本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。

ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。

本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。

本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。